

はじめに

今春の医師国家試験に医歯薬コース第1期生(過年度卒生1名を含む)5名が合格し、研修医として新たな1歩を踏み出しました。また、獣医師、薬剤師、歯科医師の国家試験にも多数の卒業生が合格し、自らの夢の実現に向け、直向きにそして着実に新たなステージで努力を続けています。医歯薬コース担当教員一同、彼らの今後の活躍を心から期待するとともに、新たな医療人の卵として相応しい生徒を一人でも多く育てていく決意を新たに日々の教育活動に当たって参ります。

「十年一昔」と申しますが、文字通り医歯薬コースは今春第10期生61名を迎え入れるに至りました。この十年を今振り返ってみると、「結果」を出さねばならぬ重圧に押しつぶされそうになりながらも新しいコースを create する楽しい試行錯誤を続けた充実した日々であったように思います。ただ、最初の数年間は中学生から「石焼くコース」とは何するコースですか? などという質問がでるほど認知度も低く、我々はとても傷ついたものでした。しかし、担当の先生方そして卒業生達の奮闘努力のお陰で7年連続医学部医学科合格を達成させるとともに、何とか one decade の区切りの年を迎えることができたことにただただ感謝と安堵の気持ちで一杯です。

今後医歯薬コースをより良くする為には全ての面で進化が必要です。我々は次の10年に向け過去に拘ることなく柔軟な発想でコースの形を作っていくしたいと思います。

医療をはじめとする様々な分野で活躍する医歯薬コースの卒業生達の姿が在校生にとっても良い励みになってくれるでしょう。どうか生徒諸君 “**Per Ardua Libertas!**” -- 苦しみを乗り越えてこそ自由は得られる-- この志を忘れず前進して下さい。

第28回入学式

去る4月7日、第28回入学式が挙行されました。医師薬コース10期生という節目の年に入学された新入生諸君に期待が膨らみます。



<新入生代表挨拶>

私はこの春、念願の水戸葵陵高等学校医歯薬コースに入学しました。医歯薬コースへの進学にあたっては、葵陵高校を卒業し、現在大学で医療について学んでいる二人の姉たちの影響もありますが、私が将来医療従事者を志すきっかけとなった一番の出来事、それは1年前に起きた東日本大震災です。被災地に駆けつけた医師達が、不安を取りのぞこうと避難所の一人一人に声を掛けている姿に心を打たれ、私も患者さんの心の支えとなる医療人になりたいと考えるようになりました。

もちろん、良き医療人になる為には、第一に学力を伸ばさなくてはなりません。高校では計画的に学習し、分からない点は積極的に先生方に聞きに行く、そんな自主的な勉強法を身に付けなくてはなりません。また、ボランティア活動や体験学習等にも積極的に参加し、様々な人たちとのふれ合いを通じて視野を広げ、内面的にも自分を鍛えていきたいと考えています。

高校での楽しみ、それはやはり文化祭と修学旅行です。今までは道路から眺めるだけだった巨大なモザイクアートの制作に関われることはとても楽しみです。修学旅行では、姉たちの思い出話に出てくるたくさんの史跡や文化を、直接自分の目で見て、肌で感じてきたいと思います。

当然、高校生活に対する不安はあります。でも期待の方が大きいです。

「夢は大きく、理想は高く」 自分の夢に向かって、充実した高校生活を送りたいです。

1年1組 鈴木彩里恵

いのちの学習会

平成24年3月17日(土)に、見目政隆先生といばらき腎バンクのコーディネーターの柳田陽子先生をお迎えし、「命をつなぐために」と題して、臓器移植に関する講演会を行いました。

見目先生は、日本では「助からない」と医師に言われた息子さんへの心臓移植を求め、仕事を休職し家族で渡米。移植を受けて息子が回復した矢先、今度は娘さんが同じ病を発症し二度の臓器提供をアメリカで受けた経験から、様々なことを語って下さいました。「日本では医師に助からないといわれた。でもアメリカの医師は外国人への臓器提供のルールを変えてまで、目の前に苦しんでいる人を助けたいという使命感を持って仕事をしてくれた。この使命感を医療従事者を目指す生徒諸君は忘れてはいけない。」という言葉に生徒は感銘を受け、医療人を目指す者としての倫理観について考えさせられたようでした。

先生は帰国後、日本人が国内で移植を受けられるよう、臓器移植法の改正を目指し、2004年夏から国会議員への直接陳情を5年間展開。2009年春より国会議員室に常駐し、同年7月に法改正を実現にご尽力されました。



大学出張模擬授業

杏林大学及び千葉科学大学による大学出張模擬授業を平成24年3月12日に行いました。

杏林大学の小林博子先生には、「いのちをささえるエンジニア～臨床工学技士～」というテーマで臨床工学技師の役割に教えていただきました。

臨床工学技士は、厚生労働大臣の免許を受けて、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作および、保守点検を行うことを業務としていることをDVDの画像で分かり易く講義していただきました。生命維持管理装置とは、呼吸(肺)、循環(心臓)、代謝(腎臓)の機能の一部を代行する装置のことで、医療機器の医療事故をなくすためにも重要な職業であることを学びました。

その他の授業テーマは以下の通りです。

「臨床検査師ってなに」千葉科学大学 畑 明寿先生

「薬の効き方の個人差」千葉科学大学 照井 祐介先生

救命救命講習



平成24年3月6日(火)マンスリーテスト終了後、医歯薬コース1年生が救急救命講習に参加しました。心肺蘇生、人工呼吸の仕方、AEDの扱い方などを指導していただき、最後に2人一組での実技をおこないました。今後、災害時でも対応できるよう皆熱心に取り組んでいました。後日、普通救命講習修了証が水戸市消防本部消防長より発行されました。



医歯薬コース進路講演会



平成24年2月2日に、第2学年医歯薬コース対象の進路講演会を実施しました。今回は、ベネッセコーポレーションの講師をお迎えしました。今年度のセンター試験を振り返り、3年次に向けての学習方法などについてご講演いただきました。

総合学習発表会

平成24年2月18日(土)、21日(月)に、医歯薬コース1年生の総合学習の発表会を行いました。研究テーマは以下の通りです。

「健康ダイエットを学ぶ」、「医療画像支援ナビゲーションシステムについて」、「栄養学から見る医療」、「毛髪について」、「パセドウ病について」、「精神疾患について」、「江戸時代の医療」、「酸性雨による人体への影響とその病気」、「カラーセラピー」、「花粉症について」、「珍しい病気」、「筋肉痛」、「食中毒について」など。

2年生からの質疑も活発に行われ、1、2年生の交流がさらに深まりました。



平成23年度大学合格状況

平成23年度医歯薬コースの主な合格状況は以下の通りです。

- ◆医学科 福島県立医科大、東京医科大、昭和大
- ◆獣医学科 岩手大、日本大
- ◆歯学部 日本大、東京歯科大、鶴見大
- ◆薬学科 昭和大、東京薬科大、東邦大、明治薬科大、国際医療福祉大、など
- ◆医療系学科 県立医療大、群馬大、福島県立医科大、順天堂大学、自治医科大学
- ◆その他 (国公立) 筑波大、茨城大、山梨大、富山大、秋田大、防衛大
(私立) 早稲田大、明治大、立教大、法政大、中央大、東京理科大 など

進路啓蒙

『最後の授業 ぼくの命があるうちに』(ランダムハウス講談社)
カーネギーメロン大学教授

ランディ・パウシュ+ジェフリー・ザスロー著

アメリカの大学では人気教授による人生最後の機会を仮定し、「最後の講義」と呼ばれる特別講義が行われている。パウシュ氏もその依頼を受けた一人であったが、他の人と違うのは、依頼後にガンで余命数ヶ月と宣告された事だった。この本は「最後の講義」の記録と、講義では語られなかった家族への思いをまとめたものである。

末期ガン教授の「最後の講義」というと、現在行っている治療法や、これからの生き方について講義では短絡的に考えがちになる。しかし、実際には著者が自分の夢をどのように実現してきたか、夢の実現方法が書かれている。言い換えるなら、人生をどう生きるかに、つまり、「死ぬ事」ではなく「生きる事」についてである。夢に向かい壁にぶつかることはよくあることだが、それはどれだけ真剣に追い求めているものか気づかせてくれるものだと。また、夢に向け大事な事は、完璧な事ではなく、最善の努力をする事だと。など、多くの言葉が心に響く。今大きな壁にぶつかっていますか？それを嘆くのではなく、最善の努力をしていますか？夢多き高校生に読んでもらいたい一冊である。